**年回忌法要のすすめ**

年回忌法要について
年回忌法要とは、故人の命日の当日、もしくは繰り上げた日に、家族や親戚、生前の縁があった方々が集い、故人をしのんで法要を営むことです。（一般的に命日を過ぎてからは行いません）呼ぶ人数や会食を行うか否かについての決まりは特にありませんが、土地柄や親戚どうしのルールもあるので、よく事前にご相談されることをお勧めします。
命日が近い仏様が二人以上いる場合
短期間に何度も法要を行うのは、施主家にとっては勿論のこと、法要に呼ばれる側も大変でしょう。一年違いぐらいまでであれば、お二人のご法要を一緒に営むでも良いでしょう。ただし、四十九日法要の場合は他の法事と一緒には行いません。詳しくは事前にご相談ください。

年回忌法要は、いつ行うのですか？

仏式の場合は、以下のようになります。
四十九日法要　・百ヶ日法要　・一周忌（命日からちょうど一年）
三回忌は命日から三年ではなく、二年後に行います。
以後、同じように命日から六年で七回忌、十二年で十三回忌。十七・二十三・二十七・三十三・三十七・四十三・四十七・五十・百回忌と続いていきます。

三回忌は三年後と間違えやすいのですが、これは亡くなって三年目となる日をもって三回忌という数え方をしています。お間違えのないようご注意ください。
一般的には五十回忌をもって、弔い上げといたします。その先は御先祖様として新年の供養（大般若）や、春秋の彼岸・施食法要・お盆の棚経の際に塔婆を建立するなどをして、ご供養いたします

法要の準備

法要の準備を実際に始めてみます。
①法要の場所、人数、形式を決める。（六～二ヶ月前）
自宅かお寺か、親戚をどこまで呼ぶか、会食は用意するか？など、大まかな概要を決定します。
②お寺へ連絡し、日程を調整する（二～一ヶ月前）
希望の日時に法要ができるかどうか、お寺へお問合せください。法要の予約は先約が優先されます。特に春や秋の季節は、真夏や真冬の法要を繰り上げる方が多く、ご希望に添えない場合もありますので、お早めのご相談をおすすめします。
③法要案内を招待者に発送する（早い方が望ましい）
概要が決定、お寺との日程の打ち合わせが済んだら、法要案内を招待者にお送りします。四十九日の場合は別ですが、一周忌以降の場合は二ヶ月前には届くようにしたいものです。特に土日の場合は結婚式と重なる場合が多いので、注意が必要です。なお、法要の場合は原則として返信のハガキをつけません。欠席者からは電話などで連絡を頂くようにしましょう。
④食事・引き物の手配（一ヶ月～一週間前）
あらかじめ大まかな人数で予約を入れ、返信の数に応じて決定します。招待者の人数の他、仏様に供えるお膳などもあります。また、業者や料理店によっては席札も作っていただけますので、事前に確認するとよいでしょう。店を決めかねている場合は、会食や引き物などご相談に応じます。
⑤最終打ち合わせ（一週間前～前日）
全ての手配が済んだら、正確な人数や詳細などをお知らせください。当日の待合室のお茶の用意等の目安になります。※こちらからご連絡する場合もあります。

これで事前の準備は完了し、当日を迎えることとなります。

### 年回法要の準備物

当日ご持参いただくもの（本堂で行う場合）
・遺影と位牌（風呂敷などに包んでご持参ください）
・生花（本堂用とお墓用一対ずつ）
・供物（本堂用としてお菓子と果物）
・供物（お墓用としてその場で食べて頂けるもの）※墓参の後お持ち帰り下さい。
・線香（お墓用）
・お布施
・塔婆代（1本につき三〇〇〇円頂いております）

尚、ご自宅の場合は、同じものを仏前にお供えください。お塔婆はこちらでお持ちします。その他、特殊な法要がある場合はその都度お知らせいたします。

※その他、何かご質問がありましたら、お気軽にお寺までお問い合わせ・ご相談下さい。

神奈川県茅ケ崎市浜之郷三五六

(八八) 一〇〇二

℡〇四六七（八六）八五一一

Fax

〒253-0086

**懐嶋山 龍前院**